

## 令和3年度 第1回大磯町総合教育会議 議事録

1. 日 時 令和3年7月5日(月)  
開会時間 午前10時00分  
閉会時間 午前11時40分
2. 場 所 大磯町役場 4階第1会議室
3. 構成員 中 崎 久 雄 町長  
熊 澤 久 教育長  
濱 谷 海 八 教育長職務代理  
曾 田 成 則 教育委員  
トーリー 二 葉 教育委員
4. 事務局 佐 野 慎 治 政策総務部長  
小 林 英 文 政策課長  
宮 代 雅 之 政策課政策係長  
山 口 竣 矢 政策課主事  
大 槻 直 行 教育部長  
波多野 昭 雄 学校教育課長  
添 田 健 学校教育課主幹兼教育指導係長
5. 傍聴人 7人
6. 議 題  
協議事項  
(1) 「人口減少・少子高齢化社会に対応した活力ある学校教育の実現について」の協議内容の  
まとめについて  
(2) コロナ禍における学校教育の在り方について  
(3) 児童生徒の事故等の状況について【非公開】  
※ 協議事項「(3) 児童生徒の事故等の状況について」は非公開にて協議を行ったため、議  
事録を削除しています。

## 7. 会議概要

### 【開会】

政策係長) ただ今から、令和3年度第1回大磯町総合教育会議を始めさせていただきます。

本日の司会を務めさせていただきます、政策総務部政策課の宮代でございます。よろしくお願いいたします。

総合教育会議は、原則、公開での開催となります。ただし、本日の協議事項(3)「児童生徒の事故等の状況について」につきましても、個人情報等の保護の観点から、非公開とさせていただきます。協議事項(2)「コロナ禍における学校教育の在り方について」の協議が終了し次第、傍聴されている皆さまにつきましても、退出していただきますので、あらかじめご了承願います。

それでは始めに、中崎町長からご挨拶申し上げます。中崎町長、よろしくお願いいたします。

### 【中崎町長挨拶】

中崎町長) おはようございます。

本日は、お忙しい中、令和3年度第1回大磯町総合教育会議にご出席いただきありがとうございます。会議に先立ちまして、一言ご挨拶をさせていただきます。

先日は大変な災害が地域に見られる大きな雨が降りましたが、幸いにも大磯町は大きな事故もなく、また、生命にかかわるようなこともございませんでした。日頃より皆さまが助け合いながら、情報を出し合いながらやってきた成果であると思います。一方、新型コロナウイルスワクチンの接種につきましても、被接種者の方々の協力により、穏やかな中にも緊張感をもってワクチン接種を着々と進めることができ、決められた期限の中でやっていこうと努力しております。

さて、本日は令和3年度大磯町総合教育会議の第1回をここに開きます。お手元の資料でございますが、協議事項といたしまして、学校教育の在り方について、現在、人口減少・少子高齢化等大きく社会的変化が起きております。コロナ禍において私たちの考えが変わると同時に、子どもたちをどのように育てていくかということ、従来の理念をもとに更に私たちが一歩突っ込んだ形で考えていかねばなりません。

総合教育会議におきましては、教育委員の方々から、町政の在り様についても、取組みに限らずご意見をいただき、この町の将来をどのように子どもたちに託していけるか、という観点での総合教育会議としていきたいと考えております。長くなりましたがよろしくお願いいたします。

政策係長) 中崎町長、ありがとうございました。

それでは、議事に移らせていただきます。議事の進行は、大磯町総合教育会議要綱第4条第1項の規定により「町長が議長となる」とされていますので、議事の進行につきましては、中崎町長にお願いしたいと思います。

中崎町長、よろしくお願いいたします。

【協議事項（１） 「人口減少・少子高齢化社会に対応した活力ある学校教育の実現について」の協議内容のまとめについて】

中崎町長） 議長を務めさせていただきます。会議時間が90分間でありますので、円滑に進むよう、皆さまのご協力をお願いします。

まず、事務局から令和2年度第2回の総合教育会議での協議内容のまとめを皆さまにお示ししたいと思います。資料を用意させていただきましたので、簡単に説明いたします。事務局、よろしくお願いいたします。

政策課長） 政策課の小林です。よろしくお願いいたします。

それでは、資料1及びパワーポイントに基づき、令和2年度の第2回総合教育会議の振り返りと、本日の協議内容を説明させていただきます。前方のパワーポイントで説明をさせていただきます。お手元には、パワーポイントと同じ資料を用意させていただきましたので、どちらかをご覧くださいと思います。

まず、資料2ページ、昨年度、令和2年度の総合教育会議の振り返りでございます。

令和2年度の第2回総合教育会議においては、「人口減少・少子高齢化社会に対応した活力ある学校教育の実現について」をテーマとして、皆さまに協議していただき、ご意見をいただきました。背景としましては、人口減少・少子超高齢化の急速な進展、大磯町の児童生徒数がほぼ横ばいであり、将来、児童生徒数の減少が懸念されている、というところにあります。これらを踏まえまして、皆さまからいただきましたご意見につきましては、パワーポイント4ページにある7つの項目にまとめさせていただいております。まとめさせていただいた7つの項目の1つ目「コミュニティ・スクールの推進」では、最も必要なのは、地域との連携・協力した取組み、また年配の方やリタイヤされた方の協力をいただきたいなどのご意見をいただいております。

2つ目が、「幼少中一貫教育の推進」ここでは「幼稚園と小学校」、「小学校と中学校」の交流を活発に取り入れていく必要がある、教育資源を共有し融通しあうネットワークでの学校再編を行うなどのご意見をいただいております。

3つ目、「少人数学級の推進」ここでは1つのテーマを長く深く学ぶことができる。その中で絆や連帯感をカバーでき、いじめ対策にも効果があるなどのご意見をいただきました。

4つ目、「人材の育成」ここでは1つの教育は人づくりであり、そこに力を入れていく必要がある。教員に教育における情熱をしっかりとってもらい取組みや方法を考える必要があるなどのご意見をいただきました。

5つ目が「教育環境の整備」ここでは教育環境を良くしていくことが必要であり、子どもたちにとって学校が楽しく、好きで心地良い環境づくりが大切、教員の仕事量の増に伴い本当に必要な行事を選んで実施していく必要があるというご意見をいただきました。

6つ目、「魅力や特色ある教育の推進」こちらは大学と連携した取組みを充実する必要がある。大磯の自然、歴史・文化を生かして、町の拠点として活性化できれば良い。子どもたちが興味を持ち、多くの体験ができる仕掛けづくり、などのご意見をいただいております。

7つ目、「積極的な情報発信」ここでは、子育て世代に優しく手厚い支援があることを活発に町外に発信していく必要がある、若い人たちに訪れてみたい気持ちにさせるような発信が必要、などのご意見をいただきました。

また、その他の資料につきましても資料1のとおりのご意見をいただいております。最後に、資料1の3ページ下段の図、委員の皆さまからいただいたご意見をまとめた図になっております。またパワーポイントの13ページにも同じ図があります。

今後は、人口減少・少子高齢化社会に対応するため、「魅力や特色ある教育の推進」や「積極的な情報発信」を意識しつつ、「定住人口の安定化」につなげていけるよう、図の左側に示した取組みを連動させながら展開してまいります。

以上が、令和2年度の第2回総合教育会議において「人口減少・少子高齢化社会に対応した活力ある学校教育の実現について」をテーマとして協議いただいた内容をまとめさせていただいたものになります。

続きまして、今回の総合教育会議でございますが、ここからはパワーポイントと参考資料として紙ベースで配布した資料のみで説明させていただきます。

第1回総合教育会議のテーマでございますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、学校教育を取り巻く環境の変化、コロナ禍の先行きが見えない状況、教育のニューノーマルへの対応から、「コロナ禍における学校教育の在り方」として今回のテーマとしております。いろいろなご意見、また、皆さまの思いというものもあろうかと思っておりますので、皆さまのお立場から率直なご意見をいただければと思います。

まず、学校教育を取り巻く環境の変化につきましては、昨年、約3か月の小中学校の休業、緊急事態宣言の発出、夏季休業期間の短縮がございました。

このようなコロナ禍により先行きが見えない状況において、学校としても感染症防止対策の徹底や、分散登校、体育祭や遠足などの学校行事の中止や代替行事などへの変更、休業期間中の児童生徒への対応などをしてきていると思っております。

また、教育環境におきましてもこれまでの形にとられない対応が必要となっております。GIGAスクール構想の前倒し、地域とのつながりを再認識した対応がございました。

そして、本日の第1回総合教育会議の協議事項としましては、「新型コロナウイルス感染症の長期化を見据えて、これからどうしたらよいか。」ということで、7つの項目を事務局の案としております。

1つ目は「感染症拡大への更なる予防策は」、2つ目は「授業や行事の実施方法は」、3つ目、「ICTの効果的な活用方法は」、4つ目、「少人数学級の推進に向けた課題は」、5つ目、「子どもたちへの適切な対応やフォローは」、6つ目、「感染予防を見据えた施設設備

は)、7つ目「子どもたちの居場所は」になりますが、こちらはあくまで案ですので、こちら以外でもいろいろご意見いただければと思っております。

続きまして、コロナ禍の中で学校が行っている感染予防対策の様子を資料とパワーポイントの21ページから26ページにかけて、大磯中学校の様子と国府小学校の様子を映しております。それぞれ、ソーシャルディスタンスであったり、感染予防対策、消毒関係等を各学校で徹底していただいている様子となっております。

続きまして、27ページになりますが、そのような中で、学校施設に関する感染対策として、今後の老朽化している教育施設の長寿命化なども必要となってくると思われま

す。また、その中で感染対策を考えた給食施設の整備もごさいます。このような「学校」と「家庭」が「地域」の中にある、という意識を持った中で、今回の協議を進めていければと考えております。

以上簡単ではございますが、協議事項について説明をさせていただきましたが、委員の皆さまのお立場から率直なご意見をいただきたいと思

います。簡単ではありますが、前回の会議の振返りと、本日の協議内容についての説明は以上でございます。

中崎町長) ありがとうございます。

それでは、A3の資料1と書いたものがござい

ますので、それをまずご覧いただきたいと思

います。前回、皆さまから協議、ご意見いただきましたものが、(1)から(8)までござ

います。前回ご意見をいただいたものの列記であります

が、ご覧いただきまして、今一度なにかご意見

がありますでしょうか。コミュニティ・スクール推進、少人数学級の推進が

ありました。パワーポイントの13ページは最後のまとめとして、皆さまからご意見をいた

だいた中で、協議結果を図式で示したものです。それから、時間が経ちまして、社会の情

勢も幾分変化があったかもしれません。その中で皆さまの英知を絞ったご意見をいただき、

最後は定住人口の安定化というところには来ております

が、そこまでの過程の中にまだまだこれからやっ

ていかねばならぬことがありますし、ほとんどその緒に就いたこと、ある

程度進んだこともあります。私たちは必死になって大磯町という、約17km<sup>2</sup>の広さ、約3万

1,000人の人口の中で子どもたちを育てていかねばならないわけであり

ます。何かこの資料1に集めたことにつきまして、ご意見ござい

ますでしょうか。

濱谷教育長職務代理) 本件については、十分言いつくしたと思

いますので私は意見ないです。

トリー教育委員) 同じくありません。

中崎町長) 熊澤教育長は前回いらっしゃらなかった

熊澤教育長) 前回、委員の皆さまが色々なお話をしていただいたと思います。教育委員会として、町として大事なことが述べられていることがよく分かります。例えば、最初にコミュニティ・スクールの推進となっておりますけれども、実際に令和3年度から大磯小学校でモデル的にスタートしていただいております。

ですが、大磯の場合は地域学校活動本部のような推進委員が実際には指名されていない状態でここまで来ています。全国的には推進委員さんがいて、その方と学校とのジョイントで新たに学校運営協議会を作るとというのが一つのパターンであります。大磯の場合は、どちらかというと社会教育的なことで推進する地域学校協働活動推進員さんという方を作らないといけないと言っている内に事業が始まっています。ただ、どの学校にも、学校評議委員さんをお願いしておりましたので、学校評議委員さんから学校長が意見を聞いて、反映するというをやってきております。今度はそうではなく、「校長が聞いて実施する」のではなく、「校長とともに一緒に考えて新しく学校の在り方を創っていこう、地域とともにある学校をつくろう」というものがコミュニティ・スクールの推進です。令和4年度は、4校すべてをコミュニティ・スクールに指定したいと思っており、もちろんそれには委員さんに対する報酬等いろいろありますので、予算的な裏付けが無いとできません。結果的にどの学校に行っても、地域と学校がwin-winの関係となり、お互いに交流を深めながら、最後は子どもたちのためにやるわけですから、子どもが多様な方と触れ合う機会をぜひ作っていききたいと、ここに書いてあるコミュニティ・スクールをぜひ推進していききたいと思っております。これが将来的には小中一貫教育につながっていくと考えて進めていききたいと思っております。よろしく申し上げます。

中崎町長) 今、他の地域で、行政区で見られる地域の推進委員の方の整備という事のご意見を、新しく教育長はお感じになっているわけでありますが、そこについて町が考えていることはありますか。

政策総務部長) 従来は大磯町では24地区ある地域の皆さまが行政側に対して意見を言ってくださいますし、協力的な部分があります。中崎町長も、地域を訪れる機会を作らせていただいて、訪問した中で生の声が聞こえておりますので、今回のような、コミュニティ・スクールの話は、既に大磯小学校を中心に動き始めていることは、各地域の皆さまもご存知かと思えます。

今日のような総合教育会議の中で教育委員の皆さまがより地域に対して期待することであったり求めることが整理された段階で、また地域の方にお話をすれば、町の方が考えていること以上に地域の方が色々な形の専門家の方がいらっしゃいますので、ご提案を含めたお話というものが進んでくると思いますので、まず大磯小学校、来年度以降に4つの学校のコミュニティ・スクール化というところから、柔軟にしっかり時間をかけてその中でそれぞれの地域の特性を出させていただきながら、進めることができるのではないかと思います。

中崎町長) パワーポイントの13ページには、一番左側に破線で囲っていますが、町として鋭意進めなくてはならないことを示しており、財政的な課題もありますが、子どもたちの教育の重要性というところで、将来がある子どもたちにどういう風にしてやれるかということは、私たちの双肩にかかっているんだらうと私は思います。多くの関心を持っていただいていることでもありますので、いろんな面で、教育委員会からの提言もこれからはよろしくお願いします。

それでは、他にご意見無いようですので、資料1につきましては、ご理解いただいた、ということで、まとめということで承認いただきます。ありがとうございました。

#### 【協議事項(2)「コロナ禍における学校教育の在り方について」】

中崎町長) それでは次に協議事項(2)「コロナ禍における学校教育の在り方について」の議題に移らせていただきます。

先ほど事務局からスライドについてご説明申し上げましたが、様々なことが新型コロナウイルス感染症で問題として出てきております。子どもたちが学校で授業が無かった際、家庭でどのように過ごしたか、一方、先進的にGIGAスクール構想を前倒しし、やってまいりました。地域の方、それぞれの関係者の方のご理解がバラバラであるところも町は理解しております。学校教育をとりまく、環境の変化につきまして、コロナ禍の先行きが見えない状況でどうしていくか、また、教育のニューノーマル適応をどうしていくか、いろいろな問題があると思います。各教育委員におきましては、存念をこの場で順次、濱谷教育長職務代理の方からお話をしていただきたいと思います。よろしくお願いします。

濱谷教育長職務代理) 第2回の振返りの中で、教育長がコミュニティ・スクールの推進というところで、もう既に大磯小学校が試行し、そして来年度は3校がコミュニティ・スクールを作っていこうというお話をされました。コロナ禍における今後の教育ということになると、私の結論から言いますと、このコミュニティ・スクールをスピード感を持って実現をしていかなければいけない。そこには、学びのニューノーマル、これに基づくコミュニティ・スクールをまさにスピード感を持ってやっていく、これが私のコロナ禍から学んだ教育の在り方だと、思っているわけです。

少し、心情的な形で、このコロナ禍の先行きが見えない状況について、お話をさせていただきたいと思います。思い起こしますと、2020年の1月、2月、この時は、私立の中学校、高校も入試の時期でありました。中国の武漢で新しいウイルスが猛威を振るっている、というニュースが駆け巡っていたころ、私もまだ私学中高に関わっている者として、どこか他人事として捉えていたという気がしています。異国の地で起こっている出来事、それよりも関心は入試に向いていたわけです。そうしますと、3月2日から全国一斉の臨時休校の要請が出されたわけでありまして。各学校では、長期休校が続き、最大の危機に直面、

新年度になっても、緊急事態宣言が全国に拡大されていく、全国的な学校が簡素化した卒業式、入学式が挙行されていきました。そんなところから考えていくと、学校は突然の休校措置によって、これまで当然と思っていた授業、いわゆる対面授業、行事、クラブ活動、昼食など、学校という場所、時間をもたらしていた豊かな活動がすべて消えてしまいました。当初は、冒頭申し上げたように、早めの春休みくらいの安易な気持ちで捉えていた学校の休校の長期化が明らかになっていくと、あわてて、ICT機器によるオンラインの学習支援が必要なんだ、あるいは、それが整備されていない場合には、どういう風にして、授業を子どもたちに提供していくのか、という模索が始まってきたわけです。

私もニュースの映像で、度々学校に登校できない子どもたちの姿を垣間見ました。また、休校中の学校に伺うと、一人も生徒がいない、寂しいグラウンドを眺める部活の顧問らしい先生がいる、いつもは業務に追われて息をつく暇もないように見える管理職の先生の手持無沙汰さ、こういう様子を拝見しました。まさに異常事態であったわけであります。そこには、残念ながら学校は無かった。学校はもちろん、生徒のためにあるわけです。そしてその生徒が大人になる、社会に出るための準備期間として、かけがえのない時間を過ごし、必要な資質、力を獲得させて、送り出すという役割は不変であると私は考えております。

人は、一人では大人になれない、だから学校には、かけがえのない存在価値がある、そのことを改めてコロナ禍の中で確認をいたしました。そして、こういう確認をしていく中で、どのように教室を創っていくのか、そして教員はどのようなスキルを身に付けていくのか、とまた考え始めてきたわけです。このコロナ禍によって、GIGAスクール構想が前倒しになりました。タブレット端末が支給され、子どもたちの学び方が大きな転換期を迎えています。端末を入れるだけではなく、子どもたちが端末と向き合う、子どもたちが前を向いて、わくわく授業を作るために、どのように我々は取り組んでいかなければならないのか、そこは町長や教育委員会の事務局等で深い議論を進めていかなければならない、と感じております。

子どもたちに変化の激しい社会で生き抜く力を身に付けさせるためには、職員室のリソースだけでは難しく、地域と学校をどのようにつなげていくのか、学校の負担を大きく増やさずに、GIGAスクールをどのように加速させていくのか、学校と地域が連携した、運営の在り方、いわゆるコミュニティ・スクールの議論を、スピード感を持って進めていくことが、このコロナ禍の中で浮き彫りになったと感じております。教育課程は、10年に1回しか見直されません。10年経ったら世の中は大きく変わってしまいます。国の指示を待っては間に合いません。学校設置の基礎自治体が、状況を考え、使えるリソースをすべて使って、高速で改善をしていくということが重要な時期に今は差し掛かっていると考えております。

先が読めない現在では、再び休校という事態になることも考えられます。そうした場合にどう対応していくか、一つの事例を挙げるならば時間割です。時間割を学年、各教科でプランづくりをしておき、大磯の教育はどんな不測事態があっても、学びを止めないとい



う発想を持っていくことです。そして同時に、子どもたちの部活動や、コンクールでの活躍、表彰等もオンライン、SNSを通じて生徒の学校生活を双方向にして発信をしていく。そういうことも、考えなければならないのかなと思います。そのため、常日頃から、訓練として、月に一、二度くらいは、オンライン授業を行ってみるというのも考えられるかもしれません。一人一台のタブレット端末でどんな状況でも、つながりを持ち続ける、すべては学びを止めないためにと考えました。

まさしく先ほど、教育長が言われた、「子どもたちのため」という言葉は、このコロナ禍の先が見えない状況がやはり子どもたちを視点にして、物事をとらえていくことになるのかもしれません。そういう形でGIGAスクールとか、あるいはSociety5.0時代の学びとか、あるいは令和の中等教育の在り方とかということが、経済産業省、あるいは文部科学省、あるいは中央教育審議会等からいろいろな提案、提言ができております。そういうことも我々がしっかりと、学びながら、学びを止めない大磯の教育というものを考えていくという必要性があるのではないかと考えているところであります。

中崎町長) ありがとうございます。後ほど、委員の先生方のご意見をまとめさせていただきます。続きまして、曾田教育委員、お願いします。

曾田教育委員) テーマからそれる可能性がありますが、実は、一昨年の12月の23、24、25日と北京に行きました。そのころ、先ほどお話にもありましたとおり、武漢でなにかわからないウイルスがあって大変なことになっている、心配だねと言っているうちに、気が付いたらもう1年半経ちました。私は去年の夏くらいに終わるのではないかなと思っていたのですが、まだいつまで続くかわからないような状況が今日あるわけですね。それで、人と会うことがこんなに厳しいことになるとは夢にも思っていなかった訳です。

それと私はもう一つ気になっているのは、2002年頃にニートと呼ばれていた人々は64万人いたんですね、それが何の解決も見ないまま、今日、引きこもり、下手すれば巣ごもりなんて言葉で、まかりとおっている。今はもう20代から60代の前半までニートと呼ばれるような方が増えております。

一番の問題はやはりコロナ禍になりまして、青年たちがどう生きていくかという問題がありまして、ニートが何の解決も見ないまま今日まで来ています。ですから学校教育の問題も大事なのですが、青年たちがどこに拠り所を見ていくのか、これは町の問題でもあります、みんなが考えていかないといけないことです。青年たちが家に引きこもりながらどんどん年を取っていきます。そうすると両親は既に退職し年金暮らしをしています。どうしたら本当の社会問題になるのか今のところまだわからないわけです。きっとそういうことも大磯町にもあるのかもしれません。やはり大磯の中にはそういうところに悩んでいるところがあるのではないかと常日頃思っているわけです。そういった部分は、学校教育の中で、考えていかなければならないし、巣ごもりが時代にぴったり合うと喜んでる暇はないと思うんですね。ニートから何も解決しない今日があるわけですからね、そ

れをどうにか、なんとか解決しなくてはならないという悩みを今持っております。コロナ禍で大変な問題が起きているわけでありますから、私たちも含めて、どうコロナ禍と向き合っていたらいいのか、そのことを十分に考えていかなければならないところに来ているのであらうと私は考えております。

中崎町長) ありがとうございます。ではトーリー委員、お願いします。

トーリー教育委員) まず、今日、校長先生方もいらっしゃっていますので、日ごろ学校の現場での感染症対策ですが、とてもよくやっていただいて、おかげさまで大磯町は学校でクラスターが出たという話はございませんで、心より感謝いたします。また、今新型コロナウイルスワクチン接種も大分進んできておりますけれども、最近、デルタプラス型とか、果たしてワクチンの有効性はどこまでなのか、そういうこともあり本当に先の見えない状況になっていますので、マスク生活はまだ1、2年は続くのかしらとか、いろいろ悩ましいところではあります。

また、この先、またいつか休校等が絶対に起きないとは言えない中で、気になっているのが、今大分リモートワークが多くなってきているのでしょうけれども、ご両親の職種によっては、リモートでできない、出て行かざるを得ないご家庭もあるかと思えます。先ほどの巣ごもりじゃないけれども、仕事がちょっと不安定になってきているとか、そういうご家庭も出てくる可能性がコロナ禍が長引くとあります。その中でもしも学校に行けなくてもオンライン授業等を家で実施するとき、例えば、リモートワークでご両親がいた場合には、会議をお父さんがしている、その横で子どももオンラインしなければならない、という状況になります。そうするとやはり、普段と今までと全然生活様式が違っているので、イライラが募って、虐待とか暴力に出るとか、そういうことを懸念しております。

やはり、学びはもちろんですけれども、命があってこそですので、そういう事件や事故等母親の立場として、起こらないようにいけばいいなと願ってやまないところです。例えば、ご両親が仕事で外に行かなくてはならない状況でお子さんがお家で1人になる。そういうときに学校側でお子さんは学校に登校するようにするのでしょうけれども、そのあたりのオンライン授業の関係等がどの程度実際にそういうことが起きたときにできるかというのが、去年以来休校になっていませんので、現実にならなくなったときのシミュレーションみたいなものはやはりあった方がいいのかなと思えます。先ほど濱谷教育長職務代理もおっしゃっていましたが、「定期的にオンライン」、「今日は1日、普通に学校に来ていますのでけれどもオンライン授業として設定します」、といったことが月に1度でもいいのですが、できれば週に1回とかそういうのがあってもいいのかなと思えます。特に中学校位になってきますと、3年生なんかは去年、私の息子も去年そうでしたけれども、入試というものが関わってくると、生徒も心配になるところがあります。学びはやはり止めてはいけないという考えを持ち、オンライン授業というのはぜひ設定していただくとよいのではないかと考えております。

インターネットの接続状況などの課題もあります。例えば、ちょっと余談ですけど、私の息子の高校も今年運動会をオンライン配信したんですが、そうするとやはりサーバーがダウンしてしまって、皆さまが見てつながらず、すぐにつながらず、そういう状況が出たりしました。そういうことを想定して、これはもう、常に確認しておいた方がよいのではないかなと思っております。そうするとカリキュラムもマネジメントも抜本的に1年間の対面授業ができるパターン、それとオンラインがどれくらい入るかにもよりますけれども、ある程度何通りかのマネジメントをしておかないと、難しいだろうなと思います。先生方も大変なんですけれども、子どもたちの行事もですね、今運動会の話も出ましたけれども、去年は半日になりました。でも、実は半日で逆に学習できる時間がちょっと多めにとれたという取り方もできます。

この先も必ずしも運動会を丸一日やる必要があるのかどうか、大人だって暑いとき炎天下で一日中は大変ですから、学校行事もこれからどういうやっていくかというのも見直して、検討していてもいいのではないかと思います。入学式や卒業式なんかも、来賓が今年は何えませんでしたけれども、子どもが主ですから、考えてみると、来賓といってもですね、子どもたちからすると、顔の知らないおじさんおばさんが並んでいて、訳が分からないまま、だから果たして必要なんだろうかと、それがあつたために校長先生も来賓の皆さまが来るからお茶を出さなければいけないとか、余計な気もお使いになる必要もなくなりますから、この辺もちょっと簡素化していてもコロナでこういうことになったのを機に少し見直していてもいいのかしらと個人的にはちょっと思ったりしております。

もちろん、オンラインで授業して学びを止めないのは大事なんですけど、やはり、対面という部分は絶対に外せないものだと思うので、もう休校になってしまつては仕方がないけれども、学校に来れているときにやっぱり部活だ、それからなんといつても友達と会える会えないというのはやはりお子さんにとってはとても大きいので、そういう子ども同士で会うこともできない、画面上で会つても、そうなつたときに精神的なケアというのもしっかりフォローできるのも考えていく必要があるのではないかなとそんなことをちょっと感じております。

中崎町長) ありがとうございます。それでは熊澤教育長、先ほどは別の意味でお話をいただきましたが、お願いします。

熊澤教育長) 今、3人の委員さんの話を聞いていると、悩ましいというか、学校も教育委員会もこれからどうしたらいいのかということが山積しているのは事実です。先が見えないというのは、こういうことだというのがよくわかります。それでも、コロナは消えないで長期化する、アフターではなくウィズという状況でまだまだ続くだろうというのが皆さまの大体の見方かと思つています。その中で、ではどうしたらいいのかというのがテーマだと思つていますが、先ほどからの話の中で、今NHKでも引きこもり先生というドラマをやつていますが、やはり子どもからある程度の年配になつても引きこもりという状況が、日本の中に

あることは事実です。その解決もそうですし、その前に未然防止ではないですが、学校での子どもたちの普段の生活についてそういうことから如何に逃れながら、きちっとした生活にさせるかということが大事なことだと私も思っております。

「こうすれば必ずこうなるよ」というのがあればこんな簡単なことはないが、中々そうはいかない。ただ、大磯でやることですから大磯でしかできないことをやりたい。欲をいえば大磯ならでは、もっと言うとさすが大磯だなということです。「教育環境を素晴らしくすれば人が集まってくるんだ」というようなことにつながっていくと嬉しいなと思います。要するに観光で人を呼ぶということも一つの手だと思うのですが、教育で人が呼べるようなまちづくりをしてほしいと考えています。

やはり、子どもたちが学校でいろんなことを今悩みながらやってくれているのですけれども、家庭の状況はみんな違うわけで、これは仕方がないことです。先ほどからリモートでという話があり、一人一台の端末を手に入れたので、そういうのはやらなければならない、というのはみんな分かっています。先生方にもなるべく、小中4校にお願いして家庭に持って帰る日というのを作っていただくという提案をさせてもらっているのですが、実際に家庭に帰ったら、Wi-Fiが繋がっていないとかの課題は当然あると思います。「もうオフラインでもいいんだ」、「ものを持って行って家でワープロ機能でもいい」、要するに端末を手に入れたら、「大事ですよ」、「傷つけないように箱に入れておきますよ」というのではなく、毎日文房具のように使ってくれる、そういったことを今度の校長さんたちが集まっていただく経営者会議の中でもお話をさせていただきたいと思っています。

国を挙げて全国津々浦々一人に一台の端末なんてちょっと前だったら考えられなかったことだと思います。これが逆にコロナ禍で手に入った、だったらそれをいくらかでも上手く使おうと考えます。ところが大人は管理をしなくてはいけないので、「壊したらどうしよう」とか様々あります。そういうのをひっくるめて「いいんだ」と、「全部それは面倒を見るから」と、子どもたちにちゃんと教育をして、家に持って行って十分に使ってほしいというような方向でやっていけるようなまちづくりをしていきたいなと考えています。

それにはどうしても壊してしまう子もいるかもしれません。ついうっかりというものもあるかもしれません。故意にはなかなかないと思うのですが、中にはそういうことも出るかもしれません。そういうものすべてに対応するような、町の姿勢であって、そういう予算を組めるような状況を作っていければ子どもたちが手に入れたその端末を有効利用するのは簡単なことではないかというふうに思います。

それが月に1回できるかできないか、それは学校の先生が授業することによって子どもたちに教えようという考え方はすごく大事なことですけれども、子どもがそれを使って「自主的に学ぶ」、「自ら道具を上手く活用して自らの学びを自ら作っていく」というような方向をもっともっとやっていく。私はこれが大磯のやり方だと思います。一斉にこういう授業をやって先生は大変ですが「授業を映して送りますよ」、「こうですよ」と、それはやらざるを得ない部分では当然あるのですけれども、休校になれば当然そのようなことはまず第一に考える、その前に子どもたちが普段の道具として使えるような状況を全体的に

作っていく、大人がそれを認めていくという方向でやっていければ、私はありがたいなと思います。ですが、世の中はわかりません。また変異株によって感染者が増えていることも報道されていますし、まだまだ戦いの中にいると思います。今後ともそういう方向で、常に、町なり教育委員会なりが子どもたちをバックアップしていけるような方向にしていければ、各学校もそれぞれ、相当意欲を持って取り組んでいただけるのではないかと考えていますので、ぜひよろしくをお願いします。

中崎町長) 熊澤教育長から、各教育委員方のディスカッションについての意見を言っていたいたのですが、教育長ご自身の意見としてよろしいでしょうか。

熊澤教育長) はい。

中崎町長) わかりました。ではここからはフリートーキングという形で熊澤教育長含めまして4人のご意見の中でお互いに「もっとこうしたほうがいい」、というご意見があれば、それぞれに貴重なご意見です。少しここで時間をとりますが、特に何かご意見ございますでしょうか。

曾田教育委員) いい意見かどうかは別としまして、昨年コロナ禍が始まりまして、それで私が感じたのは、これまで小学校中学校でインフルエンザや風邪が流行していましたよね。コロナになってからは手を洗ったりうがいしたりいろいろしていますので、大磯町では昨年あたりから小学校のインフルエンザが少なくなったように思います。それから各地域でも「手を洗ったりうがいをしたりすると、丁寧にやるとインフルエンザが流行らないんだ」と、だからこれからずっといつまで続くかわかりませんが、これはとても良いことだなと思いました。コロナの問題は別としまして、そういういいこともあるのだなとさりげなく感じた日がありました。

中崎町長) 皆が体を大事にしてよく睡眠をとって、いわゆる免疫力を高める、ということを直接理解しながらやることも大事ですが、日常生活の中で、大人が子どもたちに指導してみせるという姿勢が一番大事であると思いますので幸いながら、多くの高齢者、町の方々がワクチン接種にみえましても、ちゃんとしたディスタンスを取って順番を守り時間を守るということが家庭内でもきつと行われているのであろうと私は曾田教育委員の意見を聞いてそう思いますし、今後も学校の中でぜひそういうことを進めて行っていただきたいと思っております。

それから、手洗いの重要性につきましては、今いろんな意味で学校の方でも真剣に今一歩踏み込んだ手洗いの有用性という、食べ物を食べるときに感染が起りやすいというのは飛沫という意味ではありますけれども、やはりどこへ行っても今はアルコール消毒されますので、それは大事なことであると思いますので終生、身につく所作として続けていた

だきたいと思います。

中崎町長) 熊澤教育長からいろんな人材の大切さ、教育の大切さというご発言がありまして、学校施設に関する感染症対策ということは、それぞれ今行われているものがパワーポイントの27ページに書かれておりましたが、これは非常に大きな私たちも考えていかねばならない要素を含んでいるものであろうと思います。感染対策を踏まえた修繕・改修、感染対策と学校給食の在り方につきましては、議会の方でもご質問いただいておりますし、これまでの経緯の中で教育委員会も真剣に考えてきているところですので、ここでディスカッションするというよりは、オンゴーイングで今何を学校教育課はやっているのかということをし少し補足の話をしてもらいます。

教育部長) 今お話がありましたとおり、長寿命化計画につきましては、ここで学校だけではなく、大磯町内の社会教育施設を含めた教育施設の長寿命化の計画が策定の最終段階に入りました。これから教育委員の皆さまの方にもご報告をする段階です。感染対策を踏まえた修繕・改修という記載はありますが、それぞれ昨年度から学校の方には、アルコール消毒や石鹼による手洗い等の徹底をしているところでありまして、それに合わせて、手洗いの自動水栓化等も図っていきたいと考えており、トイレの洋式化あるいは乾式化等も早急に考えていかねばいけないと考えております。最後に教育施設の整備の在り方と書いてありますが、こちらも国をあげて教育、給食施設がどこも老朽化しておりますので、こういったところも、今までの足元が濡れた状態の調理場からドライ化した調理場への変更というのが、国をあげて進められているところですので、こういった部分は町としても考えていけないといけないと考えております。

中崎町長) 今現在の問題点について教育部長が話をしましたので、ここから先の将来的な構想については、また、別の場で話をしていきたいと思います。それでは、まず、濱谷教育長職務代理の方で、子どもたちを始点とした、町のいろんな教育対策、コロナ禍での教育対策を止めるのではない、というお話をいただきました。けして止まっているとは思いますが、今一歩ももっともっと突っ込んだ形で具体化していく、ある意味でそれはGIGAスクール構想、タブレットを子どもたちが持ちまして、それを用いた中でどのようにそれを身に付けていくかということもある意味でのシミュレーション、オンライン、それが月に1回か2回か、当然学校に大きな負担がかかっていくかもしれませんが、そういうことについて何かお互いご意見、皆さまございませんでしょうか。

曾田教育委員) 実は3日前水戸におりまして、水戸の大学では対面で授業しているそうです。関東の大学ではそういうのを聞いたことがありませんで、「良かったね」と思わず大学生相手に話をしてしまいました。人数が少ないから対面でやっているとかそういう問題ではなくて、いろんな対策をしながらやっているのですけれども、とても明るいニュースです。

私はいろんなことを考えていますと、今コロナだからいろんなことを実験されていますけれどもそれが定着するかどうかの疑問を感じています。画面を見ながら学習するという形式は定着する気がしないのです。私の子どもの会社でも会社に行かないでテレビでいろいろやって下はパジャマ着ながら上はネクタイ締めて、こんな世界がいっぱいあるわけです。子どもと話していますと、「今みんなが見ているからどこにも行けないんだ」、「電話なんか私的な話はできないから」、というあまり会社と変わっていないわけで、そういうのを考えますと、コロナの中でいろんな問題が起きていますが、定着しないのもあっていいだろうと、それが根付くことではないと私は思っています。ですから基本的には水戸で気が付いたのですけれども、やはり対面が一番の基になっていますからこれはいいことだなと思って多少明るい気持ちで帰ってきました。

中崎町長) 先ほどトリー教育委員は濱谷教育長職務代理の意見に対しまして日常化して子どもたちに教育の中にそういうものを取り入れていくというご意見であったと思いますが、他にございますでしょうか。

濱谷教育長職務代理) パワーポイントの15ページにも教育のニューノーマルへの対応というのが挙げられていますが、教育委員会として、ニューノーマル教育の定義をどこかで動かしていきたいという感じがします。では「ノーマル」ではいけないのか。何故「ニューノーマル」へ移行しなければいけないのか。ただ今曾田教育委員がおっしゃった話は、多分「ノーマル」だと思います。でも、僕が話をしてきたのは、コロナ禍が起きた、授業が休校になった、授業が止まった、だからICTを活用して、オンライン授業を少しでもやっていこうよという中で文科省の前倒しで一人一台の端末が子どもたちに与えられてきた。「ニューノーマル」へと変わっていく教育、というふうになっていくんだとすると、現場は大変疲弊してきます。まさしくコロナ禍の中で学校が再開し、消毒そして子どもたちのマスク、あるいはソーシャルディスタンスの云々等々学校の先生たちが大変苦労されました。そして管理職の先生も先頭に立ってリーダーシップを取ってそういうものを対応してきたと思います。

それを今後考えていきながら、一人一台の端末がいきわたったから、すぐに学校も「これを活用していきなさい」ということは言える。でも町は「そのためにお金つけるよ」、「そのお金はちゃんとICTの支援員を各学校に、各学年に一人ぐらいはつけるように」というように、まさしく「ニューノーマル」な教育へとシフトしていくのならば、町はそれだけの予算をつけて、学校に応分の投資をしていくということが必要になると思います。生徒一人ひとりに端末がいきわたる、そうなれば極端な話ですけれども、現在あるパソコンルームは、必要はなくなると思うわけです。ということは移動することがなくなるわけです。自分の教室で調べ学習をしたり、情報の授業を受けられるわけです。その分、調べてきてまとめたものを発表することができるプレゼンテーションルーム、こういう場を作る、マルチメディアの活動実践をできるような教室を作っていく。大磯ならできる教育がある、

という話が先ほどありました。まさしく僕はそういうところにお金を使ってもらいたいと考えます。

この間日本経済新聞に「お母さまたちに選ばれる魅力のある町」という記事がありまして、新しく40幾つかの項目の中に、今年はICT教育をどこまで導入し、実際に運営されているとかというような質問項目が新しく加わったそうです。これを見ると若いお母さんたちは、ICT教育に大きな関心を持っているわけです。だったら大磯は十分に町民からご理解をいただき、そういうお母さん、お父さんたちが「やはり大磯の教育はいいよな」と思えるよう、多くの町民の方には多種多様な業界の中で活躍されている方たちがいらっしゃいますから、町民の一人として、ワコムの上野さんが住んでいらっしゃる、ワコムのペンタブレットを使って、絵画の教育をどうしていこうか、ということが実験的に進められている。これもですね、「ニューノーマル」の教育の中に取り入れていくということを出していければと思っています。

中崎町長) 第1回目のご意見、第2回目のご意見とも、また熊澤教育長の意見もそうでしたが、コロナ禍だからこそ私たちの新しい発想の転換をしていくということは、町といたしましても受け止め、それがやっつけられるかということはこれから皆さまと急いで時間をかけることなく、議論していかななくてはならない問題だろうと思います。

次に曾田教育委員に、若い人また子どもたちにはっきりとした、町の教育の方向性を示していくというご意見をいただきました。親であり学校であり、地域の中で子どもたちにどう生きるかを伝えることは、なかなか難しい問題ですが、これは折に触れたくさんのご意見をいただいて、地域とともにやっつけていく学校の中で大人の知恵を子どもたちにどのように教えていくか、今までにない絶好のチャンスであると私は考えております。何か曾田教育委員のご意見に対して他の委員の方々に追加のご意見や委員にお話しされることをございましたらお願いします。先ほどそれぞれご発言いただいた後の他の委員のご意見もありましたので、さらに追加的なご意見があれば発言をお願いします。

熊澤教育長) 曾田教育委員のご意見について、これからの教育をどうするかということに関わってくると思います。中崎町長がおっしゃるとおり、これから教育委員会の中で教育ビジョンというのを一つ明らかにしていきたいと考えております。これは大磯ならではの教育をめざしたビジョンを明確にしていきたいと思っております。これは小中の校長とも今相談をしながら進めておりますので、ぜひ皆さまのご意見をいただきながら、やっていきたい。私が一人で作るのではなくて、みんなと共同でやっつけられればこれが広く皆さまの大きな力となって、それを基に子どもたちに日々の学びを進めてもらえるかなというふうには思っております。

こんな世の中ですからみんなイライラすることが非常に多いのですけれども、先ほど学びを止めないと濱谷教育長職務代理がおっしゃる、変化が非常に激しいことからついていくのも大変です。学校の先生方もどんどん新しいものにチャレンジする際に、うまくいか



ないこともあります、失敗もある。それを、失敗したからどうこうではなく、「失敗したから次がんばろうよ」と、いうそういう方向にぜひ見ていただければありがたいと思います。子どもたちもそういうふう「失敗してもいい」と、もっと言えば「教室は間違ふところだよ」とよく偉い先生がお話をされておりますが、子どもは間違えたくないの一生懸命考えてやる、しかしどうしてもそういうことはあります。先生方もそうです。だから「失敗を恐れずに」と、「間違ったら次を考えて行こう」という姿勢でみんな励まして見てあげるような町にしていけば、大磯の教育は、他には負けない日本一の教育になる、そういう道に近づけるのではないかと思いますので、町民全体の意識の中にこのコミュニティ・スクールというものを柱にしてみんなに広めていきたいと思っております。

中崎町長) 今熊澤教育長がビジョンという言葉を出されましたが、これは今までの町議会におきまして、教育のビジョンは何かということをお尋ねになる議員さん方もいらっしやいましたので、教育委員会でも、野島前教育長の時からビジョンの在り方というようなものも考えていただいているところですので、ぜひともとりまとめていただきたいと思っております。

ではトーリー教育委員のご意見、先ほどいただいたご意見は濱谷教育長職務代理と同じようにマネジメントを継続していく、子どもたちが実際に感じているものを家庭とをつなげながらやっていく、ということでした。新しいコロナ禍の社会での在り様というのをお話しいただきましたが、他の委員の方々でトーリー教育委員に対するご意見等ございましたでしょうか。

特にございませんでしょうか、では最後に熊澤教育長、少し、お話をまとめいただきながら発言いただいておりますが、何か追加的にございましたらよろしく願います。

熊澤教育長) 中崎町長にお願いすることばかりで、大変申し訳ありませんが、今考え方を皆さまおっしやっただいただいているのですけれども、私もそれをまとめながら、教育委員会としての教育ビジョンを提示していきたいと思っておりますので、予算的な裏付けをぜひお願いしたいと思っております。

中崎町長) 当然に教育に対する予算につきましては、いろいろとご指摘をいただいているところです。他の財政とのバランス、当然に、先ほど教育というお話をいただきました。熊澤教育長の方からお話もございましたが、教育第一の町にしていきたい、観光立町という言い方はある意味で町全体の財政というものを稼ぐ方、生業の方という意味でぜひとも必要であります。他に例を見ない大磯町の教育方針というものも、より鮮明化した形として作っていきたくと考えております。その両輪がそろそろような形というのが理想的ではありますが、今教育委員のお二方からご意見をいただきましたので、大磯町の多くの町民の方々は、当然にこの町の活性化ということ、教育をある意味で理解しながらも最近少し元気になってきた大磯町ですので、町の責任者としては、熊澤教育長の今のお話をしっかりと受け止めようと思っております。

曾田教育委員) 一言だけ中崎町長がいらっしゃいますのでお伺いします。実は一昨日に大雨が降りまして、特に熱海の土石流を見ておりまして、この大磯町は町民のためにどのようなことを、とっさの時の危機管理のことを教えていただくととても安心します。

中崎町長) この雨で、私たちは一昨日の午前3時頃に災害警戒本部会議の準備を開始し、午前5時近くに立ち上げました。従来にない集中的な降雨で午前6時近くに災害対策本部会議を開催しました。従来からそうでしたが、高齢化が進んでおりますし、より一層しっかりとした形で、皆さまの安全安心、そして命を大切にしていこうという町の理念というものをしっかりと私は示していかなければなりません。

その時の私たちが考えましたことは、町民の命をどう守るか、やや時間的には他の市町村より遅れましたけれども、十分の会議の上に職員の集合を求めました。1号配備というのですが、学校施設の避難所として学校の管轄ではありますが、災害時は町の施設として頭を切替えさせていただき、学校の中に避難所を、「オオカミ少年になってもよいからとにかく開けましょう」という皆の意見をもらい、相当に教育委員会に負担はかけましたが、今後とも教育長にもそういう話を、また教育部長にも言いまして、従来と違ったスムーズさで学校施設というものを開放してまいりました。今後共通の認識でもって進めていきます。子どもの生命は当然であります、町全体の生命も町長としては包括した形で対処していきます。

曾田教育委員) ありがとうございます。

中崎町長) それでは、ここで、協議事項(2)「コロナ禍における学校教育の在り方について」は終了させていただきます。

それでは、一旦、進行を事務局にお返しします。

**【協議事項(3) 児童生徒の事故等の状況について】**

※協議事項「(3) 児童生徒の事故等の状況について」は非公開にて協議を行ったため、議事録を削除しています。

政策係長) それでは、非公開の協議事項が終了しましたので、傍聴される方がおりましたら、ここで入室させていただきます。

《傍聴者入室なし》

政策係長) それでは、「4. その他」に移らせていただきます。委員の皆さまから何かありますでしょうか。ないようでしたら、事務局から1点、ご連絡させていただきます。

政策課長) それでは、今後の予定をお知らせします。

次回の会議につきましては、10月から11月頃に開催を予定しています。本日の協議のまとめ等につきましては整理いたします。次回の会議のテーマについても、皆さまからご意見いただきながら、日程等調整させていただきます。

以上です。

政策係長) それでは、これをもちまして令和3年度第1回大磯町総合教育会議を終了いたします。

本日は長時間に亘り、ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

(以上)